虎列刺豫防の義捐金募集

去る六月末虎列刺病毒長崎市街に發して忽ち全縣下に蔓延し遂に九州の各縣に廣がり今は中國筋の一二縣に及び此程に至ては東京市街に侵入せんとするの勢あり既に該病に罹りて倒れたる者さへあり若し長崎市街の例を東京府下に再演する事もあらば其慘狀測られざるものあらん素より病毒の豫防に就ては當局者に於て夫れ〳〵方法を設け用意既に整ひたりと雖も斯る病毒蔓延の勢ある今日に當り市民は當局者の爲す所に一任して心を安んず可きに非ず況んや病毒一たび貧民の間に蔓延せば治療の資に窮して其慘狀見るに忍びざるべし隨て病毒傳染の勢を助け府民の禍一方ならざれば本社は此際廣く世間の慈善家諸君に義金を募り大日本私立衛生會に托して府下貧困者施療豫防の資に供せんとす世の慈善者諸君左の諸項に從ひ多少に拘はらず義金を授せられんとを乞ふ　時事新報社

一義捐金は一口十錢以上とす
一義捐金は東京市京橋區南鍋町二丁目十二番地時事新報社に送付せらるべし
一時事新報社に於て義捐金を受取りたる時は日々正午時までに達したる分を取纏め義捐者の姓名並に義捐金額を翌日の新報に掲載し之を以て金員受取の證とす
一時事新報社に集りたる義捐金は相應の高に達し次第隨時大日本私立衛生會に送付し同會に托して府下貧民のコレラ豫防施療の資に供し義金消費の方法は後日新報紙上に公告すべし

時事新報

美術の評に就て一言

今回の博覽會出品の美術品に付き或る外國美術家の評に日本の美術に近來衰退の色あるは兼てより承知する所なれども更に實際を觀れば又失望の至りに堪へず今回の出品に就て之を評するに其手先の細工は頗る巧妙なるものあれども要するに創造の意匠は次第に薄弱となり模倣の精神さへ〳〵盛なるもの〳〵如し蓋し其原因は種々樣々なるべしと雖も近年來日本の學校にて頻りに實物彫刻を奬勵し繪畫の如きも專ら實物に就て學ばしむるより爲めに創造獨得の精神を發揮するみを能はずして偏に模倣の一方に傾きたるゝみと重もある原因なる可し云々の言ありしと云ふ其言或は然るやも知る可らずと雖も我輩の所見を以てすれば今日美術の衰退は更に重大なる一の原因ありと云はざるを得ず抑も日本美術の今日に至るまで獨得の發達をなしたるものは他なし數百年間社會に一種強大の勢力ありて日本人が祖先以來氣候風土歷史其他種々の境遇より感得したる美術の意匠を助長扶掖したればなり一種強大の勢力とは即ち封建時代大名の餐澤にして二百五十年間の太平に德川幕府を始とし全國三百餘の大名は華奢風流の餐澤に耽りて方技曲藝の徒に至る迄も務めて之を網羅し遊藝の藝に長ずる者さへ官に衣食して其職を世々にするの有樣なれば時の技藝家は何れも其恩澤に依りて自家の業を專修する事を得たるが故に一世の氣風靡然として此に向ひ隨て世に名工巨匠を出すに至りしや又翻ふ可らず世の所謂美術家なるものは盛に王朝の昔を羨慕する者もなきにあらず蓋し王朝の藝術は奈良朝廷の盛時に發達し物に依りては大又觀る可き者もあるのみならず或は後世人の到底企て及ぶ可らざる所少なからずと雖も要するに當代の美術は唯後世の業を爲したる者に過ぎずして眞に圓滿微妙の發達をなしたるは德川封建の時代に在りと云はざるを得ず然に維新革命の一擧、幕府先づ倒れて尋で三百の大名も封土を奉還すると共に其餐澤の資を失ひたるが故に封建の餘蔭に生々して發達を遂げたる人事は一として衰頽せざる者ある可らず美術の如きも其數に漏れざるゝと勿論にして其運命を與にするは亦止むを得ざる次第なりと申す可し左れば今日の有樣にては日本の美術は恰も其滋養の泉源を失ひたるものにして泉源既に涸槁する以上は獨り其末流の盛なるゝとを望む可らず近來世上に美術奬勵の論甚だ盛にして唯ふれを口に唱ふるのみならず共進會の開設と云ひ學校の設立と云ひ又は博物館の擴張と云ひ其他奬勵に關する實際の手段頗る油斷なきが如しと雖も大厦の傾く一木の能く支ふ可きにあらず區々たる奬勵法は以て大勢の衰頽を押へ留む可きに非ざるが如し左れば此時に當りて之を救ひ之れを挽回して固有の光華を發揮せしめんとするには先づ其滋養の泉源を深くするゝと必要なれども今の日本の社會は人爲の大名を作りて其餐澤を利用するが如きは到底行はる可き沙汰にもあらざれば今日の處は暫く帝室の餘光を假りて其命脈を維持保存し他日我國民の富實を致して國内に滋養の泉源充溢するの日に至り而して後に大に其奬勵法を談ずるの外なかる可し方今都鄙に富豪と稱する者なきに非ず其力能く美術の後援を爲すに足る可しと雖も不幸あるは金力ある者に限りて雅致風韻に乏しく假令へ財を散して豪奢を事とすれはとて其散財の法都て俗にして唯僅に自から肉體の慾を慰るか然らざれば鄕黨朋友に向て餘の多きを誇る事情もあれば前記百三十九弗餘の算用は或は多きに過ぎざるか、再言すれば米國人が昨年より百斤に付き九十四弗餘多く拂出しゝるは相場少しく高過ぎたるにあらざりしかと思はるゝものあり、即ち生絲輸出の模樣昨年の如く活潑あらず寧ろ休業同樣の有樣あるもの其反響として證すべし試みに昨年七月三十一日と今年同月同日の横濱生絲在荷の高を比較するに左表の如し

横濱生絲在荷比較表

種類	本年七月卅一日	昨年七月卅一日	本年の增減
器械 新	四八九四	一二〇〇	三六九四增
器械 古	一〇九三	一三五	一二九八四增
器械 計	二一〇〇	二二五	一六八八增
座繰 新	三九一	一二二	一七九一增
座繰 古	一一四	四二一	一九三四增
座繰 計	一一〇	五四五	三五七九增
揚返 新	一八八	一一一	一一一減
揚返 古	一六八	二二六	一七四減
揚返 計	二六八八	二二六	一七四減
屑繭 新	七二	二九	一四增
屑繭 古	六七八	三七	二七增
屑繭 計	二九三	三七六五	一七七增
奥仙 新	一一	一一	一一減
奥仙 古	二六	二二	一七減
奥仙 計	二七	二二	一七減
總計 新	四八九四	一二〇〇	三六九四增
總計 古	一一〇九三	一三五	一二九八四增
總計 計	二一〇〇	二二五	一六八八增

右表に示す如く昨年は各種生絲の新古在荷合して三千餘梱に過ぎざりしに今年は九千九百餘梱にして三倍の增加あり換言すれば生絲の賣行は昨年の三分の一に出でざるものなり、何等の商品に關せず賣るべきものにして賣れざる時は金利嵩みて荷主の所損と爲らざるものなしと雖とも生絲の如き金高の多きものは殊に以て然りとす即ち例へば一梱の生絲を原價六百圓とすれば日步を二錢五厘としても一日に十五錢宛の利息を拂はざる可らず一梱一日の利子十五錢なれば一萬梱一箇月の利子は四萬五千圓なり況んや生絲の在荷漸く嵩みて金融漸く必迫し金利亦以て高るに於てをや銀價騰貴の爲めに生絲商人の蒙る可き損失は實に其價格のみに止らざるを知るべし　（未完）

○福嶋縣洪水彙報　福嶋縣下洪水の事は既報の如し

上に記載せしが尙は同地の通信員より其彙報を得たれば多少重複

去る二日以

もなく降り

と六日午前

強雨なりし

も水溢れ非

六日の午後

七日午前六

より午後二

し怒濤天を

れが爲め被

便を缺き居

聞知せる處

汽車　六日

へ到着すべ

より仙臺へ

行する能は

一時半に上

き二番列車

白河停車場

は難なく福

更に來ざる

日間は上下

（凡そ十六哩

そ二十八哩

あるも其日

郡山間なる

堂川の鐵橋

の小破損は

郵便と電信

亦全く不通

至るも尙ほ

汽車にて送

逢隈川以東

通なりし、

さで不通な

後、山形を

る有樣なり

能はざりし

家屋流失

なるを知ら

岡町は逢隈

悉く床上又

しく小高き

て難を避け

り元來同地

一大湖を現

月、則四十

三十三戶、

處、破損の

處、溺死せ

るなし斯る

吏書記官其

に盡力し夏

に伊事せり

にては四十

無數、鳥谷

三橋、逢隈